

令和6年度

「県・市町村青少年
相談担当者・東毛地区研修会」

アンケート結果

群馬県子ども・若者支援協議会

令和6年度 県・市町村青少年相談担当職員東毛地区研修会 アンケート結果

日時 令和6年7月25日(木)

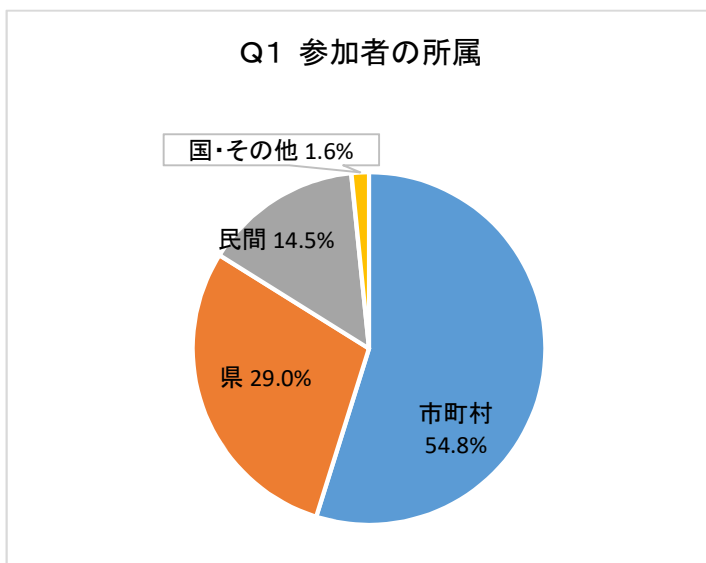
13:00~16:40

会場 笠懸野文化ホール

- 研修参加者 140 人
- 回答者 62 人
- 回答率 44.3 %

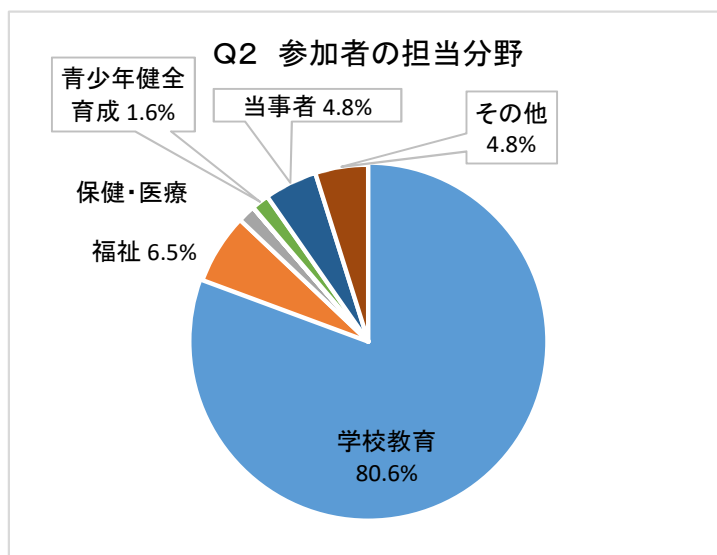
Q1 回答者の所属

	人数	割合
市町村	34	54.8%
県	18	29.0%
民間	9	14.5%
国・その他	1	1.6%
合計	62	



Q2 回答者の担当分野

	人数	割合
学校教育	50	80.6%
福祉	4	6.5%
保健・医療	1	1.6%
雇用	0	0.0%
矯正・更生保護	0	0.0%
青少年健全育成	1	1.6%
当事者	3	4.8%
その他	3	4.8%
合計	62	



Q3(1) 第1部 情報提供

①群馬県発達障害者支援センター 次長 桑原 友美氏

発達特性の不安を和らげるための専門的な支援～自己認知と目標ステップの支援～

②群馬県私立通信制高校連絡協議会事務局長(わせがく高等学校教頭)丸山 昌利氏

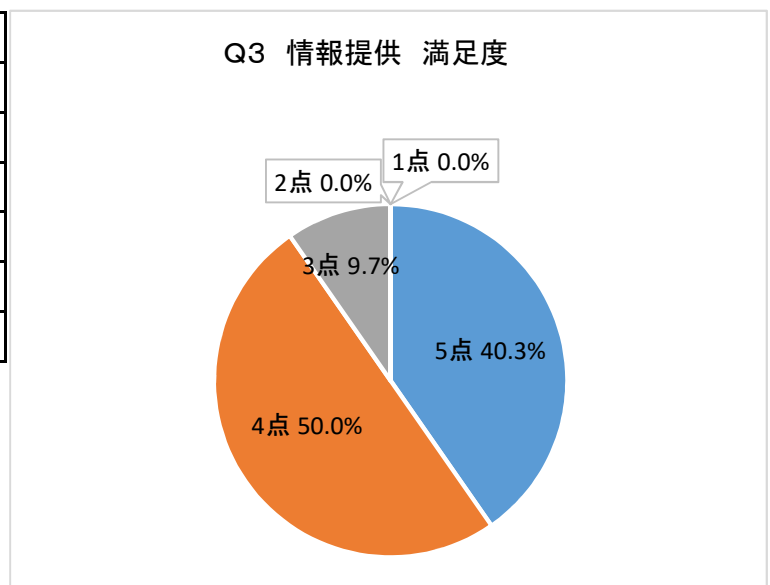
発達特性のある若者の「学びの支援」～広域通信制高校の特徴を生かした学習支援～

③ぐんま若者サポートステーション 総括コーディネーター 唐澤 文彦氏

発達特性のある若者の「就労の支援」～働くことに不安を抱えている若者への支援～

進行役 上原 篤彦氏

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	25	40.3%
	4点	31	50.0%
	3点	6	9.7%
	2点	0	0.0%
	1点	0	0.0%
合計		62	



○意見・感想等

1	私は発達障害のお子さん担当ではないのですが、町の教育支援センターで不登校生徒の支援をしています。教室に通う子にはコミュニケーションが苦手な子も多いので、進路について学べることがあればと参加しました。わせがくさん、また私立通信制高校連絡協議会に所属されているサポート校の手厚い進路支援や連携の話を聞かせていただき、とても心強い思いがしました。
2	当事者(30代)が、就活に対して前向きに支援を受けたいと思うようにならない場合、どうしたらいいかわからないので困っている。
3	具体的事例も情報提供いただき、ありがたかったです。
4	自分は小学校特別支援学級の教諭ですが、担任している子どもたちの将来がどのような道があるのかとても知りたかったことなので本当に良い内容でした。 今直面している困りごととして、支援学校中学部を卒業した後、通常中学校の支援学級を卒業した後の具体的な例が知りたいと思っています。研修等で調べていきたいと思っています。
5	「社会で幸せに暮らせるように」という目標を持って、児童と接しています。社会で自立して生計をたてるということに向かうまでに、様々な支援機関があるのだなということがわかりました。お話ししてくださった方々皆、 「その方の意思を尊重する」ということをおっしゃっていました。自己選択ができるようにすること、自分自身に肯定感を持てるようにすることを大事に今後も児童と接していきたいなと思いました。
6	具体的に、また、最新の情報を得ることができ大変ありがたかったです。このような研修会があることがもっと広まり、多くの方と共有できたらと思いました。

7	発達に課題を抱える児童に対し、教師は数年の付き合いだが、保護者は一生であり、今この時の支援が必要で、かつ数年先を見据えたキャリア相談も必要で、そういった意味で今回のセミナーは大変学び大きかった。
8	高校の教員をしています。発達特性を持つ生徒や保護者をサポートする機関が様々あり、そのような団体ときちんとつながりながら子育てをしている家庭がたくさんあるのだと驚き、感動しました。学校現場で働く教職員が困っているのは、「発達特性があると思われ、その特性のために学校生活を送りにくい状態になっているにもかかわらず、支援機関を紹介しても支援を拒む家庭が多いこと」です。「学校の先生やクラスメイトがうちの子の特性を理解して配慮してくれれば大丈夫なので…」と主張される保護者が多いのが現状です。無理矢理支援につなげる事はできないため、「つなげられない」ことに我々は困っています。そのままなんとか進路を決定して卒業していく生徒もいますが、転退学していく生徒も多く、無力さを感じます。県立高校とは違い、市立高校には高校通級のシステムがありませんし、特別支援に関してはかなり手薄な状態だと思います。
9	学校教育のその後困ったことがあったときに、どこに、誰に、どうやって相談すればいいのか。当事者になったときに相談窓口がわからない。学校関係者も、保護者も、だから、不登校になったら、引きこもりになったら、高校中退したら人生詰んでしまったみたいになる。学校とか地域とか、小さい世界の中で失敗したことで、人生を諦めないように、支援者のネットワークを広めていくことって大切だと思った。
10	私立の通信制高校に通う子が増えているということが、グラフなどでよくわかりました。通信制高校がたくさん増えていますが、その中で自分にあった学校を探すのが大変になっていると感じます。実際にパンフレットを見たり、見学や体験に行くのが一番と思いますが、何校も行くのは負担な子もいます。たくさんある中からどこに見学に行けばいいのか迷う子もいます。
11	いろいろな立場の方のお話を聞くことができ学校を経営する立場として視野を広げることが出来ました。小学校なので進学についてこれからも情報収集をしていきたいと思っています。
12	就学、就職や社会との関わりについて、やはり情報発信力が自身の活動も含め、とても大切になってくるのだと感じました。なんども「とりあえず聞いてみる、まず連絡を」とパネリストの方もおっしゃっていましたが、多くの方が「とりあえず」聞ける、頼れる場所がどこであるのか分からず、情報にたどり着けていない現状があるのではないのでしょうか。今回のような情報提供を、就学時の検診や、説明会の時に、各学校でしていただけたらありがたいのではと感じました。まず、困った時に頼れるところがある、という情報が満遍なく保護者のかたに伝えられるという利点と、実例があると「こういった困り感で相談しても良いのだ」という安心感に繋がるのではないかと思います。
13	多様化した個人に対して多種多様な進路は、提供されるべきですね。
14	保護者の方たちは、その日のことで一杯で、まだ、義務教育卒業後の進路について、考えることや調べることに余裕がないようです。本日は、具体的な事例をお伺いでき、良かったです。悩んでいる児童や保護者の方たちが色々な機関と繋がって、味方を増やしていった安心してもらいたかったです。
15	わせがく高等学校の丸山先生の話が印象的だった。
16	各機関の最近の状況を伺うことができ、特性があったり、転学を希望する生徒がいた場合や、転学先も決まらぬまま卒業や退学をして行く生徒がいた場合に、どんなところかなど具体的に情報提供できそうです。
17	大変参考になりました。申し込んでよかったですと思いました。前列で聞いてたくさんメモを取りました。会場も広くて涼しくてとてもいい会場でした。
18	貴重な事例についてお話をうかがえて、大変参考になりました。特に、わせがく高等学校の丸山教頭先生のお話は、実際に通信制高校で行われている支援のあり方について知ることができ、ありがたかったです。また、発達特性のある生徒の進路(就労)について考えるとき、どこに相談していけばいいのかということも道筋が見えました。
19	連携できる機関として名前は知っていたものの、どんなことをしているのか詳しくは知らなかったので、大変参考になりました。また、事例を交えてお話いただいたので、とてもわかりやすかったです。
20	高校での相談業務を担当しているので、丸山先生のお話がとても参考になりました。今、わせがくさんを始め、県内の私学の通信制高校で転入学・編入学ができないほど需要が高まっている状況で、多種多様な学びの場の設定が本当に必要だと感じています。わせがくさんでの事例や実践も話していただき、手厚い指導支援が行われているからこそその人気だと感じました。

21	各支援機関で行われていることが知れたのがよかった。私が関わっているのは高校生年代の知的障害生徒だが、卒業したあとにどこからも支援を受けにくい生徒が時々いる。今日お話しくださった方達とつながることで、そのような生徒への支援もできそうかなと思えたことが良かった。
22	話し合いの内容が広すぎてポイントがわからなかった。
23	サポート校のニーズが高まっている中で、カリキュラムや学校生活の様子を知ることができて、良かった。
24	知的特支学級の担任をしています。 今までは必ず高等特別支援学校にいくと考えてましたが、それでは生徒に合わないケースもあると実感しました。そこで、サポート校を選択肢にしたのですが、授業内容と卒後の就労に不安がありました。
25	障害者支援センターのこと、通信制高校のこと、サポステのことについての事例や最新の情報を聴くことができ、勉強になりました。 それぞれの事例も聴かせていただき、とてもありがたかったです。欲を言えば、情報提供いただいた3者(または2者)がこんなふうにつながりましたという事例があれば、聴きたかったです。
26	具体的な事例を聞くことができ、勉強になりました。
27	発達障害支援センター、ぐんま若者サポートステーションの概要について 詳しく知る事ができ これからの支援に役立てたいと思います。 わせがくの教頭先生から わせがくの実際についてお話が伺え 理解を深める事ができました。
28	普通学級に在籍している不登校傾向の生徒や診断は出ていないグレーゾーンの生徒から、通信制高校やサポート校はよく希望進学先にあがります。実際にどのような支援や寄り添いをしてくれるのか知ることができて有り難かったです。
29	中学情緒教室担任です。不登校や学力不振の生徒のため、研修会に参加しました。現状、様々な支援が受けられ、適切な幸せを選択できるまでに自治体を育てていただけたと理解しています。ありがとうございます。そこで、不勉強なところもありご教示いただきたいのですが、通常、登校できている生徒には生活アンケート等で本人の困り感やら口頭以外で多面的に実情を収集したり分析したりすることが学校内でできるのですが、不登校生徒についてはそれが難しいようです。学校に来てもらえない家庭訪問も受け付けてもらえない場合において、そのような不登校生徒に生活アンケートなど(不登校生徒用、発達障がい生徒用)のものがあれば、それを利用してほしいのですがありませんでしょうか？ないようでしたらいつ頃できますか？または何かサポートできるようなことがありましたら協力したいのですができますでしょうか？ご教示のほど宜しくお願い申し上げます。
30	支援の専門機関について知れてよかったです
31	それぞれの支援施設における、発達特性のある子どもや親に対する支援事例について具体的に話を聞くことができよかったと思います。教員の立場で生徒に接する際に、生徒や保護者に症状について助言することは難しい場面もあるかと思いますが、相談できる機関があることが知れてよかったです。
32	私立の通信制高校のサポートを知ることができました。 きめ細やかなサポートは人数が多い普通高校の担任としては難しい面があります。休みがちな生徒、普通高校に馴染めない生徒が自己肯定感をなくすことなく、次につながるように支援できたらと思っています。 卒業後が未定のまま、進学も就職も決まらず、卒業することが目標になる生徒が時々います。中退する生徒もいます。その生徒たちのその後をどうするのか、そこまで考えて適切な機関につなげることが学校としての役割と感じています。その際には、学校から専門機関に相談させていただくことの気付きがありましたので、活用させていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

Q3(2) 第2部 意見交換

①意見発表 群馬親子サポートだるまの会～発達障害児者親の会～代表 原真理子氏

親たちの声「我が子の高校進学・就職活動に対する不安・心配」

②意見交換

■ コーディネーター: 共愛学園前橋国際大学短期大学部 教授 上原篤彦氏

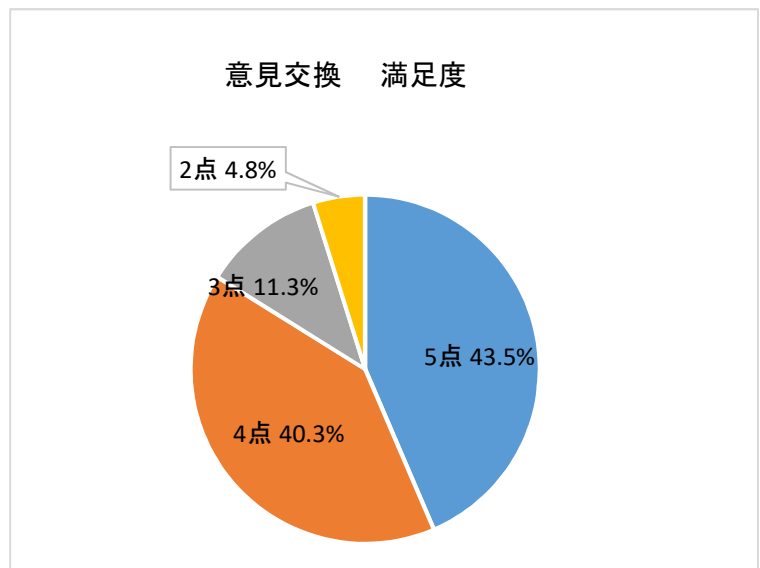
■ 助言者: みどりクリニック院長 鈴木基司氏

■ 登壇者: 群馬県発達障害者支援センター 次長 桑原 友美氏

群馬県私立通信制高校連絡協議会事務局長 丸山 昌利氏

ぐんま若者サポートステーション 唐澤 文彦氏

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	27	43.5%
	4点	25	40.3%
	3点	7	11.3%
	2点	3	4.8%
	1点	0	0.0%
合計		62	



○意見・感想等

1	とても熱い意見交換で、参加してよかったと思いました。当事者保護者の原代表のお話からは昔の苦勞と、今の制度がそうした苦勞を受けて出来上がって来ているんだと言う経緯がわかり、参考になりました。 みどりクリニック鈴木先生のお話はとても温かく、支援を期待して来た方への初めての対応の大事さを考えることができました。 コーディネーター上原教授の要約やまとめが、とても熱を帯び、わかりやすく、つながることの大切さをしっかり心に留めることができました。とても素晴らしかったです。ありがとうございました。
2	本日は、貴重なお話を拝聴させていただき、ありがとうございました。 義務教育期間においても、支援体制が整っておらず開拓中であることに驚きました。 一部の人しか知り得ない相談窓口や解決の糸口ではなく、必要な方全てに届く制度として整うことを願います。 相談を受けた際には、たとえ担当外でもただ該当しないことを伝えるのではなく、適切な相談窓口を紹介できるように、また担当者は他機関と連携し包括的な体制で支援ができるようにと願います。
3	「保護者の思い」というものを包み隠さずにご意見を聞けたことがとてもよかったです。親御さんは、どんな思いでいるのか、経験をお話して下さったり、文面で載っていたりしました。この思いを忘れず、支援する者として一人ひとり、親御さんを含めて大事に接していきたいと思いました。また、鈴木先生のお話にあった、「不安は抱えるもの」という捉え方を自分の考えの中に取り入れて、接していきたいと感じました。
4	様々な立場の方の思いや考えを伺うことができ、また、今(今後)どんなことが必要かをリアルに捉えることができ、大変貴重な機会となりました。ありがとうございました。

5	<p>それぞれ、いろいろな立場であるから、少々、相手に対し遠慮している雰囲気があった。特に、保護者代表の先生は、後進の子どもたちや保護者のために、もっと困っている人が沢山いる、すぐ対応が必要なんだ、という切迫感を出すと良かったと思う。</p> <p>私学に通級がない？こと、公立は既に、私立も通信制がいっぱいになりつつあること等、高等教育は、従来の体制では既に対応できなくなっていることなど。</p> <p>小学校は変わりつつある、中学校はこれから、では高校は？という段階かと。この変化に対応できなければ、高校は、高等教育機関としての社会的役割を果たせなくなると考える。</p>
6	<p>我が子の様子をきちんと観察し、支援団体と「つながりたい」と考えている保護者に育てられる子どもたちは幸せだと思いました。</p> <p>支援に「(教員は)つなげたいが、(本人や保護者が)つながろうとしない」家庭の問題は、やはり解決不可能なのでしょうか。</p> <p>「ぐんま若者サポートステーション」の唐澤さんが、学校の教員からの電話相談にも応じているときけたことはとても有益でした。</p> <p>ありがとうございました。</p>
7	<p>形を整えて丁寧にお話をされていた印象でした。とても聞きやすくて分かりやすかったです、せつかくの機会なので、もっと本音で語っていただくのもありがたいと思いました。</p>
8	<p>自分の現在30才になる子どもも、高校生で不登校になり、どこに相談したらいいかわからずに不安な思いをしました。退学するまで、先生やスクールカウンセラーの方に相談しましたが、繋がりませんでした。その後、こころの健康センターから発達障がい支援センターにつなげてもらい、障がい者枠で働けるようになりました。</p> <p>原代表もおっしゃっていましたが、このパンフレットは、すごくわかりやすくて良かったです。当時、これがあれば、良かったなと思いました。</p> <p>このパンフレットは、現在困っている親の手元にも届くのでしょうか？</p> <p>ぜひ、早いうちに、親が少しの動きで、できればワンストップでつながるところにたどり着くことができればと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p>
9	<p>話し合いの中でいいなと思った言葉、特性は概念、バイオマーカーはない。決めつけずに、その人はその人。支援が必要な人は状況が変わればニーズが変わる。大変な人の先が見えるようにすることが孤立を防ぐ。期待してきた人に対応する難しさ。適応することへの不安。自立と依存。不安を言語化することで不安を緩和することができる。不登校、引きこもりの自立って？着地点は？</p> <p>上原先生の司会が素晴らしかったです。</p>
10	<p>だるまの会の原さんの話や資料の中の「親たちの声」の中には、私自身も疑問に思ったことがあったので、それについて聞くことができ、大変参考になりました。サポステという場所があることも知りました。登壇された方々の話を聞いて、困ったときには繋がれる場所があるという安心感をもったとともに、自分自身相談されたときには、話を丁寧に聞くことと、自分が力になれなくてもつなげることを意識したいと思いました。ありがとうございました。</p>
11	<p>社会的自立に向けた支援のあり方については原校長先生同様、行政との連携がとても重要だと思っています。学校が出来ることと行政が出来ることは違いますが、学校としてはそのつながりをもっと持ちたいと考えます。学校はいずれ卒業してしましますが、社会に出た後頼りになる拠り所があると我々学校側も本人家族も安心できるのではないかと考えます。行政の方々とそのような話を勧められたら誰もが暮らしやすい故郷になると思います。行政にリードしてもらいたいです。</p>
12	<p>私はおもに、幼児から中学生の支援について考えていますが、今関わっている子どもたちの数年後、という視点でお話を聞くことができ、いろいろなことを考えることができました。ありがとうございました。</p>
13	<p>意見交換は、研修参加者を含めてやりたかったと強く感じます。各所の現場で活動する人同士、支援側の課題など共有したり、それぞれの現場での肌感覚などを話し合えたら今後のよりよい関わりのための話し合いができたのでは、と想像します。こどもたちが関わっていく未来の話ができなかったのがとても残念です。</p>
14	<p>様々な立場で支援したいですね。</p>
15	<ul style="list-style-type: none"> ・会場からの質疑応答の時間がまったくなかったのが残念だった。 ・登壇された方の15年前の交流話や苦労話は必要ないと感じた。かえって子どもたちの現状が見えにくくなってしまった。 ・子どもたちの未来に向けての具体的なアクションが見えてこなかった。

16	<p>保護者の視点へも少し理解が及びました。</p> <p>ただ、私の勤務校でのケースでは、気になる生徒や保護者を各機関に繋ぎたくても、特性を認めたくないとか受け入れ難いなどにより、案内しても行ってもらえなかったり、そもそも話題を出せなかったりしています。保護者にも特性がある印象で、相談も難しいケースが多いです。</p>
17	<p>親御さんのお話を聞いたことが大変参考になりました。困難な中でも、知識や行動力がある親御さんであれば、子どもや家族の向かう方向を見つけ出すことができますが、親御さん自身が困難を抱えていたり能力的に難しい場合は、卒業後に支援先を探すのは難しいのではないかと思います。学校と繋がっている間(学生である期間)に、行政やその他の支援機関にしっかり繋いでいくことが大切だと感じました。</p>
18	<p>今回の研修に参加させていただき、発達障害の診断が出ている30代の方の住むグループホーム勤務職員として、就労の部分に苦勞している様子が意見交換なされた原さんの「やる気」の沸いていない方への支援へのつなげ方、つなぐことの難しさ、つなぎにかかる時間なども興味深く拝聴し、つながった場所・担当者によってその人のその後の人生を大きく左右する大事なポイントになると感じました。とても参考になりました。ありがとうございました。</p>
19	<p>それぞれの立場からのご発言が経験に裏打ちされた重みのあるものでした。</p> <p>特に原真理子さんのお子さんの就職活動(様々な連携機関へのつながり)について書かれたところは、簡潔かつ、分かりやすく焦点化されており、自分が担任している保護者を思い浮かべ、紹介したいと思ったほどでした。</p>
20	<p>実際にどこに相談していいかわからないとき、まずは問い合わせてくださいと言っただけなのはありがたかったです。生徒の将来を考え、各種機関との連携が必要だと感じたときは、各種機関のお力をお借りしたいと思います。</p> <p>また、本校は私立高校ですが、通級のようにどうしても公立との差が出てしまうところがあります。人員の関係で、特性のある生徒に合わせてじっくり指導していくということも困難です。私立だからこそきめ細やかな指導をしてもらえると考えて入学したのに、どうして配慮してもらえないのかという生徒・保護者の考えと合わずに意見が対立してしまうこともあります。難しいとは思いますが、公立と私立がもっと柔軟にやり取りできたり、私立同士で協力したりする体制があるといいのにと感じています。</p>
21	<p>原先生には、保護者の立場で率直なご意見がいただけたのがよかったと思います。それに対してそれぞれの立場でお答えいただき、大変参考になりました。つながることの大切さ、つながれることのありがたさを感じました。</p>
22	<p>それぞれの立場での感じた思いなど、具体的なことがきけて参考になりました。</p>
23	<p>「つながる」をテーマに大変有意義な意見交換だったと思います。</p> <p>相談業務の中で、「どこに相談して良いかわからない」・「どこが一番フィットするのか分からない」ことから、なかなかつながることができない保護者の方や先生方にお会いすることがあるので、「勇気を出してどこかにつながったら、次につながるべきところを教えてください」と背中を押せるのは大変心強いです。願わくば、どの機関のどの方もそういう姿勢でいらっしゃってくださったら・・・と思います。</p>
24	<p>保護者代表としてのご意見や医師の立場からのお話がとても参考になった。この相談はこの機関に、と細かく分かれていることは専門的なサポートを受けやすい反面、相談のしにくさにも繋がっているという話は保護者の方から時々聞くので、ワンストップで相談をうけ、適切な機関に繋げてくれるようなところが県内にもっと増えるといいなと思う。</p> <p>私は特別支援学校高等部に勤務しているが、学校だけで解決するのが難しいことがたくさんあり、支援機関の方にたくさん助けていただいている。ただそのような連携は学校としてのつながりやシステムがあるわけではなく、個人でつながりがある教員はできるが、ない人にはできなかったり。また異動などで関係が途切れたり、異動先であらたに関係作りをするのに時間がかかってしまったりなど、効率が悪いと感じることがある。教員である以上異動はやむを得ないが、そこを補えるような形を作るのはとても難しい。</p>
25	<p>県や市、教育部門、福祉部門、ハローワーク、医療関係など、様々に救いの手を差し出してくれていると感じる。しかし、利用者側からすると、どこに相談すれば良いかわかりづらいと感じた。病院の受付で何科にかかれば良いかを案内してくれる人がいるように、案内窓口は一つだけにして欲しい。</p>
26	<p>高等特別支援学校に頼らない進路選択が生徒が自分の人生を主体的に生きることに繋がると実感できました。</p> <p>サポート校の魅力、卒後の就労の心配などいろいろな気持ちが混ざっていましたが、おかげ様でスッキリしました。ありがとうございました。</p>

27	原さんのお話や資料の中に、支援者として知っておいた方がよい意見がたくさんありました。原さんの話から意見交換につながり、さらに情報が加わり勉強になりました。欲を言えば、原さんの資料にあるつぶやきに対する意見交換がもっと聴きたかったです。
28	保護者目線のニーズがわかり、参考になりました。
29	前任校でとても気になる児童がいました。不登校児童に対して、学校は卒業すればもう縁が切れてしまう。職員も異動すればもうわからない。卒業後は誰がその親子の困り感に対応するのか。その児童は私の異動直前あたりから登校が減り、不登校のまま卒業し不登校のまま中学生になりました。中学校からすれば顔もわからない不登校生徒Aです。結果的にうまく次の人にバトンが渡せなかったのが心残りです。今回改めて学校にできることは何なのか考えることができました。
30	だるま会代表の原さんのお話は 現実と向き合う機会になりました。もう少し 原さんのお話の時間を取って頂きたかったです。
31	困り感を経験した親の目線での意見が参考になりました
32	当事者の方や、医療の専門分野からのアドバイスなど具体的で参考になりました。コーディネーターの上原先生のお話も、非常に参考になりました。
33	つながるをテーマに話を聞くことができ、支援者のひとりとして、つなげることの重要性や保護者の思い、本人の思いについて等、さまざまに考えることができました。

Q4 次回研修会への期待

次回のテーマ「社会生活を円滑に営む上で困難を有する子ども・若者の支援」について、どんな内容を期待するのか(意見・要望)を記入してください。

○意見・感想等

1	どういった支援の施設があるのかや、声掛けや支援者の心構えの実例がいろいろ伺えるとありがたいと思います。
2	上手くいっている情報以外も知りたいです。 ・支援する体制が整っていない場では、支援をする人の負担が大きい。 ・自分の特性や障害の受容・理解ができていない人がいる場合の周囲の負担(人間関係や業務)も大きい。 ・このような現場がどのくらい把握されているのか。 ・支援者への支援はどうなっているのか。 ・特性や障害を理解できていない人への支援をどうしているのか。 上記のようなことを知りたいです。
3	中学校卒業後の具体的な進路やその家族の状況など。
4	実際にそういう若者が働いている会社で、その子が働き続けることができるようにどんな支援をしているのかを知りたいです。また、そのような若者は、どんなことが社会に出て必要と感じているのかお話ししていただくのではなくても、文面でも頂戴できたら参考になります。
5	様々なお子さん、若者がいらっやると思いますが、選択性(場面)緘黙と思われるお子さんや若者の現状、理解やサポート等についても取り上げていただけたらと思います。
6	社会生活を営む上で、支障を来している子どもの主な理由と対応のしかたを教えてください
7	発達に課題のある子どもたちが、社会の中でどうしたら、生きていけるのか、それぞれ色々な道、キャリアパスがあり、それをどう探し出すのか、親や教師はそれに向けて、どんな助けができるのか。
8	幼少期から高校までの間に集団生活に困難を有したことがあったが、特別支援を一度も受け入れてこなかった家庭への対応方法を教えてください
9	学校の中(教員)には支援が難しいところが多いと感じています。専門性の高い方々のご意見を伺いたいです。また、外部の専門家の方々の方から見て、学校に対して抱えているマイナスな面や改善してほしい部分などを教えてくださいと思います。具体的なお話をお聞きしたいです。
10	若者支援について、フリースクールや放課後デイなど民間のほうが動きが早く、国のほうがあまり何してるのかわかりません。人手が足りずに動けないなら、もっと民営化していけばいいのではないかと思うことがあります。先日、前橋市がフリースクールにいく交通費を市で支給するという報道がありました。国が自治体が作れないならせめてお金を出してほしいと思います。官民の連携はどうなってるのかなと思います。
11	幼保小中それぞれの時代に大切に欠かすことのできない支援を教えてください
12	後半に意見交換があるとすれば パネリストも参加者も混ぜて話し合える機会があれば素敵だなと思います。
13	困難を絞り運営してほしい。
14	職場から求められることは、何か。 どんなところで暮らしていくのか、そこで必要なことは、なにか。 それまでに、どんなことを身につけていけば良いのか。 などについて、お伺いしてみたいです。
15	学校にいる間は何とか適応していても、社会に出てから今まで隠れていた問題が表に出てきて社会人として自立していくことが困難になる若者が周りにもいます。できないことは人に助けてもらい、自分ができることで相手を助けていくような、お互いに支え合う社会になるために、具体的にどのような取り組みがされているのか(時短の正社員勤務、会社のサポート体制など)を知りたいです。
16	次回も興味深そうなお話ですね。また、PALだといいなと思います。
17	今日のお話を聞いて、不登校の生徒に対して、学校として関係機関に協力を仰げるのであれば、とても心強いと思いました。具体的にどのようなケースの時に協力体制がとれるのか、またその際にはどのような手順を踏んだら良いか具体的に教えてください大変ありがたいです。
18	仕事柄、正に「社会生活を円滑に営む上で困難を有する若者」に接する移行支援事業所の支援者の方とお会いすることがあります。社会に出る前の支援として、そういう方からのお話をお聞きするのはどうでしょうか。
19	どの機関がどのような支援を行っているのか、具体的な事例が知りたいです。
20	困った事がある時、相談する窓口を一元化できるよう皆で知恵を出し合ってはどうか？

21	学校や医療、行政の連携について詳しく知りたい。事例をもとに具体的にどんな支援ができるかなど。
22	具体的な事例が複数聞きたい
23	社会生活を円滑に営む上での困難さが、どんな支援のつながりがあることで改善されるのか、子ども～若者まで、発達段階別に色々な事例が聴けるとありがたいです。
24	ケーススタディについて聞けたらと思います。
25	それぞれの発達段階でできること、気を付けたいことをいろいろな立場から考えたい私事です。 担当する分野が一つしか入力できないのにモヤッしました。出張費を頂くのだから学校教育の立場は当然ですが、不登校や発達障害を持つ子どもの保護者でもあります。保護者として参加してもとても有意義な研修会でした。
26	話者の人数を減らした方が内容が深まる気がします
27	社会生活を[学校][集団]として捉えるなら、なぜ困難を示すのか？ どうしたら少しでも困難を減らせるのか？ 支援者 教員としての視点についての学びの機会になれば有り難いです。
28	学校教育はもちろん、社会教育や地域でのサポートをされている例を知りたいです。学校だけでは全てを解決するのは不可能なのに、多くの期待が寄せられていて苦しいです。
29	大人による子供への支援の立場もありますが、大人が発達障害でそれを支える家族子供の立場もサポートしていただける情報があれば教えてください。
30	今回の発達に特性のある子供に限らず、円滑な社会生活を送るには、ソーシャルスキルのトレーニングが必要だと中学校の現場で感じます。中々、継続してそのようなトレーニングをするのは時間的に難しいですがやっていきたいと思っています。
31	困難を有する子ども、若者をとりまく家族や周囲の人の気持ちの保ち方、考え方、対応の仕方なども含めてお願いしたい。
32	懇談会